



東長崎

—ひがながプライド—

HIGASHI NAGASAKI PRIDE

PRIDE
HIGASHI NAGASAKI JHS

長崎市立東長崎中学校
学校だより 第13号
令和6年10月18日発行

自ら誇りと自信を持ち、率先して行動する

第44回少年の主張大会

10月6日（日）、東長崎中・日見中・橘中学校区青少年育成協議会主催の「令和6年度 第44回 少年の主張大会」が東部地区にここセンターにて開催されました。東長崎地区の各小中学校より小学生6名、中学生8名の代表が自分の思いを語ってくれました。本校からは1年生、2年生、3年生から本校代表として参加しました。

1年生代表者は「高齢者が生きやすい社会へ」と題して、自分のおじいさんの生活の様子から、高齢者の運転には大きな危険があるからといって免許を返納させることは早計かもしれない。まずは、高齢者の不安や不満を解消するための基盤を整えて、高齢者が安心して生活できる社会を築き上げることが先決ではないかと訴えました。医療・行政の面でも高齢者のことを考えた取り組みを考えていく必要があるとともに、自分自身も知識を増やし、自分にできることを実行していきたいと話してくれました。

2年生代表者は、イギリスへの語学留学の経験から友達に対する考え方の変化について話をしてくれました。言語の壁があったけれども、勇気を出して話しかけてみると、優しく答えてくれたり、ジェスチャーを交えてくれたりと会話が進んでいったそうです。そして、言語が違って伝えられなかったこそ一生懸命に話そうという気持ちになり、「イエス」「ノー」をはっきりと伝えることができ、相手を傷つけずに自分の気持ちを伝えようとするのが大切だと感じました。人にはそれぞれの個性があり、その個性を尊重しながら自分の思いを伝え、話し合うこと、そして温かい心で接することで、お互いに居心地よく楽しい時間を過ごすことができると教えてくれました。

3年生代表者は、曾祖母ががんと闘い苦しい状況の中、ひ孫の自分に千円を渡してほしいと言って大叔母に預けた千円札を、大叔母から受け取ったことから、いろいろのことを考えたこと、そして考える経験をさせてくれた曾祖母への感謝の気持ちを話してくれました。そして、お金には貨幣としての価値だけでなく、人の思いも込められている。だからこそお金の大切さを忘れず、人の気持ちを考えられる人でありたいと話してくれました。そして、最後には曾祖母へ直接伝えることができなかった「ばあちゃん。本当にありがとう。」と伝えてくれました。きっと、おばあちゃんにその思いが届き、おばあちゃんは微笑んでいたと思います。

また、本校生徒会から3年生と2年生から各1名進行役などを務め運営に携わってくれました。ありがとうございました。

連合音楽会・美術部作品展

10月17日、18日の両日に「第74回長崎市中学校連合音楽会」が長崎市ブリックホールで開催されました。本校からは音楽部16名(3年生8名、2年生2名、1年生6名)が17日(木)に参加しました。曲目は「僕らは生きものだから」「『四季のソネット』から『夏』」の2曲を発表しました。クオリティの高

さを感じさせる立派な演奏とともに上品で清楚な振る舞いを感じました。

また、他校からは、合唱や吹奏楽の他に、オーケストラやハンドベル演奏もあり、各学校における音楽活動の充実が感じられるものでした。

さらに、連合音楽会に合わせ、10月10日から16日にかけて、長崎ブリックホールで「第11回 長崎市中学校美術部作品展」も開催されました。この美術展は、市内美術部生徒の作品を一同に展示することで、美術部生徒の連携を深め、活動を活性化するとともに、生徒や保護者をはじめ市民の皆様に鑑賞していただき、美術部の活動により関心を深めていただくことを目的としています。本校美術部からもこれまでに取り組んできた数多くの素晴らしい作品が出品されました。

矢上くんち奉納踊り

10月17日(木) 矢上くんちが開催されました。今年は年番町として馬場本浮立と矢上町ココデショが奉納され、本校でも庭先廻りとして、奉納踊りを披露していただきました。本校生徒も馬場本浮立で3年生1名、1年生1名が、矢上町ココデショでは1年生1名、2年生3名が参加しました。本校での奉納踊り披露の際は、友達が出演していることもあり大変盛り上がり、伝統ある奉納踊りを堪能させていただきました。すがすがしい秋の始まりを感じさせてもらったひと時でした。